

文 献 資 料

凡 例

1. 文献資料は、大草城ないし同城跡に直接関わるもののほか、長久手合戦や伝権道寺廃寺に関わるものも参考として収録した。
2. 文献資料は、次のとおり配列した。
 - 1～6 刊本抜粋
 - 7～12 稿本「大草村誌」抜粋
 - 13～17 長久手合戦記抜粋
 - 18～23 地元の寺方文書
 - 24 棟札
3. 文献資料13～24は伊藤が読み、翻刻にあたって文字等は以下のように扱った。
 - ・漢字は原則として現行の漢字を用いる。
 - ・異体漢字や略字漢字も原則として現行の漢字に改めるが、慣用される字句については、原史料の字体のまま用いる。
 - ・地名、人名、寺社名などの固有名詞は、原史料のままの漢字とする。
 - ・虫損、破損、汚損などによる判読不能の文字は□□で示す。
 - ・捺印された印章は、形体にかかわらず（印）とのみ示す。
4. 文献資料のうち、ある資料については原史料の写真を掲載、棟札については形状、大きさを示した。

文献資料1

『尾張志』抄 尾張藩撰 天保年間（1830-44）成立
愛知県郷土資料刊行会本

大草ノ城

大草村西之島といふ地にあり西北二方は山を垣とし東南は二方ともに深谷を境とす右城内東西廿間南北廿間あり城主は福岡新助也と土人いへり此界内も城之内といふなり

文献資料2

稿本「愛知郡村誌」のうち「尾張国愛知郡熊張村誌」抄 愛知県編 明治13年成立
徳川林政史研究所蔵

大草城墟

村ノ西方ニ在リテ高岡ニ拠ル東西貳拾三間南北三拾四間面積六百零五坪今皆陸田トナリ其四至殆ント峻絶ス城主ハ往時福岡新助ナル者之ニ居ルト今尚土人ノ口碑ニアリ

文献資料3

『愛知郡誌』抄 明治22年刊

大草城址

熊張村字溝ノ杖^{熊張村}ニ在リ西北山ヲ覆ヒ東及南ハ深谷ヲ繞ラセリ頂上東西貳拾間南北貳拾五間許今大抵耕地タリ里伝ニ云フ往昔福岡新助ナル者之ニ居レリト

文献資料4

『愛知郡誌』抄 大正11年刊

大草城址

大草城址. 長久手村大字熊張字溝の杖^{熊張村}に在り、西北山を覆ひ、東南は深谷を繞らせり、頂上東二十間、南北二十五間許、今大抵耕地たり、里伝に云ふ、往昔福岡新助なる者之居れりと。

文献資料5

『長久手村誌』抄 浅井菊寿編 昭和11年刊

旧大草村城址は字溝の杖^{熊張村}に在り、西北山を覆ひ東南は深谷を繞らせり、頂上東西二十間南北廿五間許有り今大抵耕地たり、里伝に云ふ往昔福岡新助なる者之れに居れりと。

以上尾張誌旧新郡誌

文献資料6

『長久手村誌』抄 長久手村村誌編纂委員会編 昭和42年刊

大草地跡

熊張字溝ノ杵にあって、今は大方耕地となり塚跡は竹藪となってその形態を保っているが判然としない。福岡新助という者の居城であったと伝えられている。(福岡の後裔は現在岩作の福岡氏であるとのことである。)

文献資料7

稿本「大草村誌」 戸田鉄四郎編 ~昭和5年

五. 土地ニ関スル事項之部

・地図之部 大草村ノ字名十三と小字名地名

- 一 福井……大洞 石亀堂 ^{たいく}大麓
- 二 東山……山庄 をぶくでん 小坂 志水
- 三 平地……をちだ 小ぶけ カエトバ 中嶋田
- 四 松杵……日よも 定納 せんげがね ^{なかじょうの}中上野
- 五 東田……畑中 ^{こがわ}小川
- 六 中井……いなわき よしぼち じんて 桜湯 ぬめりこ せぎ ながれ シタオサ
- 七 杵之洞…上ノ杵 下ノ杵 清水がけ いなこしば このす 山ノ神
- 八 郷前……城ノ内 ホーシンボー 野中 やぶ下 中て 郷中
- 九 北浦……中ずわ ちんちから 北ノ洞 とんびがす わなつぼ うばがふところ ひち山
たいこがね
- 十 溝ノ杵…石バシ ナワテ 寺田 城下 こうじが平地
- 十一 岩廻間…本多池 新田池 ^{きつねぼろ}狐洞
- 十二 真行田…かけの下 一本木 市坂 かへとば
- 十三 立花……北立花 ででん (傳天) かりまた

・山林之部

北浦山は瀬戸道の東にして権道寺山と云ふ、今では払下して長久手村の村有林となる。明治28年までは部分木の山で大松あり。

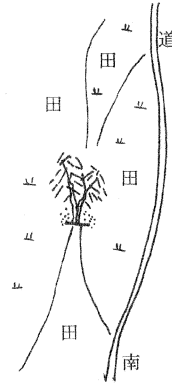
文献資料 8

稿本「大草村誌」 前出

八. 古跡

城下の小塚

長久手合戦時代ヨリアリ 城下墓ノ西ノ田ノ畦ニリンカノ
木アル小サキ塚ナリ 伝説ニハ権道寺ニ関係した所ト云フ



文献資料 9

「大草村誌」 前出

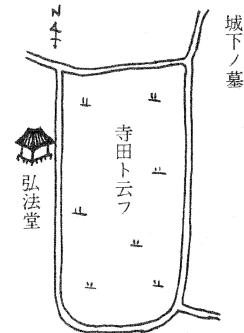
八. 古跡

権道寺の跡 (廃寺)

字溝之杵ノ寺田ト云フニ在リ天平十三年第四十五代聖武天皇ガ諸国ニ国分寺ヲ建設セラレシ時代ト云フ 布目古瓦ヲ堀リ出ス 此レハ三河国西加茂郡猿投村大字舞木字丸根ノ廢寺跡ヨリ出ル古瓦ト同ジ天正年中長久手合戦ノ頃ニ破壊セリト云フ 焼失シタリト云フモ焼土ノ出タル証ナシ
○此ノ寺ニ在リシ地藏菩薩, 薬師如来, 大日如来ガ川ヨリ出タニ付キ香流川ト名稱ス此ノ三尊仏ハ地藏尊ヲ永見寺へ, 大日如来ヲ宗延寺へ, 薬師如来ヲ昌隆寺へ祀リシト云フ

○権道寺ト書クモノアルガ昔ノ地図ニ菱野村字権道寺ト云フ所アリ 権道寺池アリ大草村権道寺山ノ続ク所ナリ 天正十二年長久手合戦軍記ニモ権道寺山ヲ過ギトアルニ付キ道ト書クガよシト言フ

○寺田ト云フ所ハ西嶋ノ弘法堂前デ南北五十間東西四十間デ現今ハ田地トナレリ地名ヲ長拝ト云フ所へ捨テテアリ 此ノ地ヨリ堀リ出シタリ香流川ト名ヅケル



○鐘ハ熱田ノ白鳥山法持寺ノ物が大草権道寺ノかねナリト伝説ニ言フガ違フテアラズ云々トアリ 此ノ寺ハ文明年中ニ再興ノ寺ナリ 附記参考

伝説ニ水福山権道寺ト云フニ付キ水福山永見寺トセント云フ 字溝之杵ハ御堂入口ト云フニ付みぞのいりト云フトアリ

△天正十二年四月九日午前二時徳川家康公ノ本隊ハ小幡城ヲ出發シテ本地村ニ入り駒前ヨリ権道寺山ニ進ミ市坂ヨリ色金山ニ登ル云々, トアリ

△礼拝堂ノむねニアリシ金ノ鳩ほととぎすガ埋リテアルノデ掘ルトヨイト里伝ニ云フ 薬師如来ト延命地藏菩薩, 大日如来ヲ祀ル

文献資料10

「大草村誌」

十二. 伝説

△昔権道寺と云ふ寺あり（字溝ノ杵の寺田）此の寺は尼僧（アマ女）が居て愛情の事より放火し○
て焼けたとも云ふが信じがたし

△永見寺を水福山と云ふが水福山権道寺であった水福山を稱名するとこれもまあ信じがたし

○古寺の権道寺は字溝之杵（御堂入口）後につけた字名有り 天平十三年第四十五第聖武天皇が
国分寺を各所に建てられし頃の寺なりと云ふ 掘り出した古瓦（布目瓦）は三河国西加茂郡舞木
村の寺趾より出た布目瓦と同じである。 現今は寺田と云ふ地名あり 天正十二年長久手合戦の
頃に破壊せり

文献資料11

「大草村誌」

八. 古跡

大草城趾

愛知郡誌（明治二十二年発行）ニハ大草城址ハ熊張村字溝之旧大草村ノ地ニテ城下トモ云フ西北
ハ山ヲ覆ビ東及南ハ深谷ヲ繞ラセリ頂上ノ東西三十間南北二十五間許リノ地デ今大抵耕地也 里
伝ニ云フ往昔福岡新助ナルモノ之ニ居レリト

○尾參宝鑑（明治三十年発行）ニハ大草村西ノ嶋ト云フ地トアリ 西北二方ハ山ヲ垣トシ東南ノ
二方トモニ深谷ヲ境トス 城内東西二十間南北二十間アリ 城主は福岡新助ナリト土人ハ云フ
此ノ界内モ城ノ内ト云フ地ナリトアリ

○明治十三年尾張国愛知郡第二区熊張地誌調査ニ字郷前地内現在畑トナル 城ノ内ト云フ又城山トモ云フ 東西二十三間南北三十四間旧郷主福岡新助ノ宅ノ趾ト云フ 天正十二年長久手合戦頃マデアリシナラン 一説ニ末胤を庄右ヱ門トテ元禄年間ニ他村へ移住セリト云フ大草村ニ福岡氏ナシ 絶家セリ

大草城跡
1間1分図



苔の花布目瓦を拾ひけり 花月 (印)

文献資料12

「大草村誌」 前出

十二. 伝 説

長久手合戦の略記

—旧大草村地内の話—

家康軍

天正十二年四月九日午前二時家康公小幡城を出発する

九日午前四時頃に本地村に來り駒前より大草の権道寺山に着く 小山ヶ沢より色ヶ根山に日の出頃来て旗を立てたり

九日午前十時頃に富士ヶ根へ前進して合戦始まり正午頃勝ちたり 九日午後二時頃権道寺山へ移り小山ヶ沢(大草)にて首実験の成せり 其より小牧山方面へかへる。

秀吉軍

天正十二年四月六日池田勝入信輝（四十九才）第一隊として先発す 森長可（廿七才）第二隊、堀久太郎秀政は第三隊として、羽柴秀次は第四隊となりて出征す

七日午前十時頃池ノ内村より関田村を進軍せり 八日午前十時頃に印場村より新居村を進軍す 九日午前の日ノ出頃に岩崎城の下へ着く 岩崎城主丹羽勘助氏次の弟なる氏重（十六才）初め家臣戦死落城せり

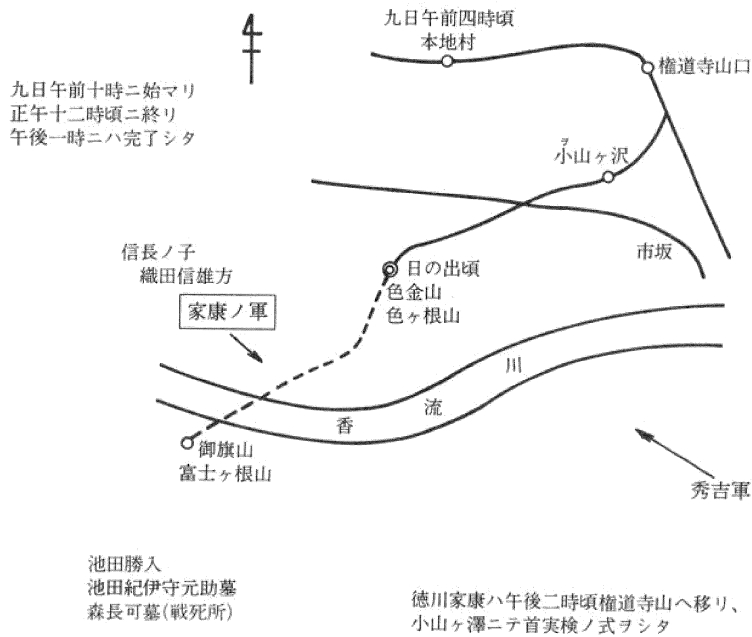
九日午前十時よりの合戦にて戦死大將次左の如し

- 池田勝入信輝（四十九才） 秀吉も四十九才なり
永井傳八郎に殺される
- 池田紀伊守元助（二十二才）信輝の子なり
安藤彦兵衛に殺される
- 森 長可（二十七才）
本多八藏に殺される

右何れも明治二十四年（池田家・森家より）敷地を買い上げて碑を建て、毎年四月九日に招魂祭を行ふ

長久手合戦（大草地内）略図

徳川家康公は天正十二年四月九日午前二時頃小幡城ヲ出発ス
先鋒は伊井直政ナリ



文献資料13

「長久手村合戦場伝之記」抄 享保4年(1719) 児氏重書写 蓬左文庫蔵
勝入殿ハ武蔵守討死も不知して陣所ハ何としてさわがしくそかためて立よ立よと仰たれば其勢東
を西と見てさなぎ山をぎふ山と見て参州指て落行 7-13

文献資料14

「長久手記」抄 享保21年(1736) 蓬左文庫蔵
秀次ノ兵西国ヨリ容戦ト云俄ニ敗軍地ノ利ヲ不レ知三州猿投山ヲ岐阜山ト目アテニシ東ニカヘ敗
行篠木柏井ノ一撥モ来ル馬モ来リ馬具武具衣類悉ハギ取ト云モ吉田修理後仕越前忠通卿大阪ノ夏
陣ニ忠直卿ノ主衆軍武威振四方惜哉此節伝馬ノ川水ニ溺死

「長久手記」 5-9 頭註

文献資料15

「参考長久手記 上」抄 稲葉通邦私考 天明2年(1782)~寛政9年(1797)
蓬左文庫蔵

参考 古武談四十云

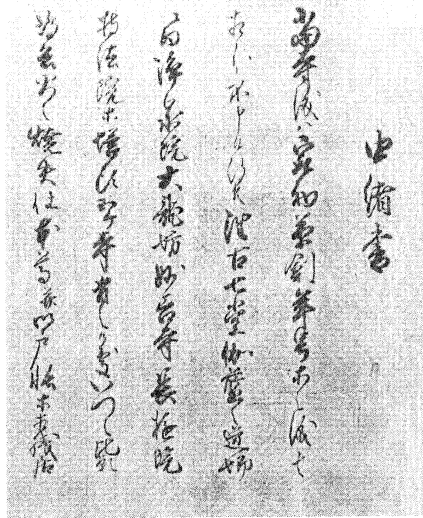
松奇五郎八多ニ敵ヲ切テ首ヲ取ル中村ハ昔博ニ敵覺シ
家人阿良助ニ首ヲ取ラセ由切テ首ヲ取リ類ノ射ニ水
野勝成モ井伊直政ニ復シテ取テ其ヲ十五間ニ進寄
思母衣ニ銀ノ舌ノ出テ首ヲ取テ首ヲ取リ高遠ヲ又
一首ヲ得テリ直政ノ從兵廣瀬美濃安事房三科
肥前守形半根清海左門柏全平兵衛智助左門寛
新田源田中解左門若重五郎左門関主水山又長徳由切
次長長官重等敵ヲ切テ功名ヲ近近平左門秀用若田
三郎左門定次等其三郎左門徳木後清兵衛守備西ノ
名左門政直赤坊名ヲ標名治左門勝重等敵ヲ
突貫ノ宿裡長可ノ備散乱ト東南ノ方ニ崩走リ神原
康政信輝ヲ旗本ニ突懸ル信輝ノ從兵多ハ三河猿投山

(略) 信輝長可ノ備散乱し 東南ノ方ニ崩走ル 神原
康政信輝ノ旗本ニ突懸ル信輝ノ從兵多ハ三河猿投山ニ
邊ル(略)

二〇一頁

文献資料20

「由緒書」抄 安政6年(1859) 教圓寺藏



由緒書

當寺儀ハ最初草創年号等之儀ハ
相当不申候得共往右七堂伽藍之道場
ニテ浄泉院大龍坊妙善寺長遊院
持法院等塔頭五ヶ寺有之候処ついの比か
為兵火之焼失仕(略)

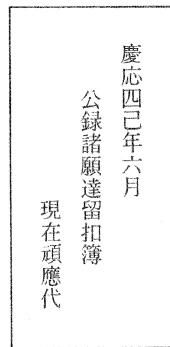
文献資料21

「公録諸願達留扣簿」抄 明治3年 前熊寺藏

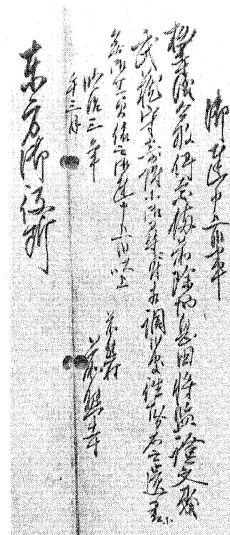
一御達申上候事一

御達申上候事
拙寺儀今般伊奈備前除地岡田将監證文森
武藏守寄附等御尋二付相調候処往右分右之遺書等
無御座候依之御達申上候以上

前熊村
前熊寺
明治三年
午三月
東方御役所



(表紙)



文献資料22

「前熊寺鎮守天王由緒書」

—奉願上候事— 明治3年 前熊寺藏

右和泉守殿領内被致順見候節此寺ハと
御尋ニ相成庄屋重吉申上候ニハ此寺ハ往古
和合寺ト申当村之祖福岡太郎助ト申者
建立致置候其寺を改而前熊寺ト申候由
申上候ハ、丹羽和泉守殿依御上意境内五反歩
除地之證文被下置候天正五丑年右前熊寺
住持良椿僧鎮守ニ牛頭天王を鎮座致置候
天正七卯年森武藏守殿御改之節も如前
前熊寺境内五反歩除ち置候寛永辰年
伊奈備前守殿改之節も前々之如く境内
五反歩被除置外二庚申堂地所式反歩
寄附致被置ハ、御證文御座候委敷ハ伊奈
備前守殿御繩除帳之末ニ御座候又寛文七
未年太田紋左衛門殿御改之節当寺分書上
置申候ハ当年末前熊村前熊寺儀二境内
五反歩八前々除地外二庚申堂ハ伊奈備前守

(略)

(略)

文献資料23

「上地届」 明治9年 前熊寺藏

上地届

第二大区十三小区尾張国愛知郡前熊村

曹洞宗前熊寺

一境外五反

右八永録六年岩崎城主丹羽和泉守殿領
内順見之節二除地二相成爾来天正七年未録
武藏守御改之節モ境外五反ト被除置寛永
辰年伊奈備前守殿御改之節寛文七年太
田紋左衛門殿御改之節元録八年御奉行
所彈助殿三宅善八殿恒河分八殿御改之節
延享三年御改之節モ從前之通被除置候処
天正五年右寺住持長椿者其地ト為鎮守牛
頭天王ヲ鎮座致置候故御一新之節神仏
混交御禁止ト付上地仕候間此段奉届也

明治九年三月二日

愛知縣令安場保和殿

上地届

第二大区十三小区尾張国愛知郡前熊村

曹洞宗前熊寺

一境外五反

右八永録六年岩崎城主丹羽和泉守殿領

内順見之節二除地二相成爾来天正七年森

武藏守殿御改之節モ境外五反步被除置寛永

辰年伊奈備前守殿御改之節寛文七年太

田紋左衛門殿御改之節元録八年御奉行

所佐田彈助殿三宅善八殿恒河分八殿御改之節

延享三年御改之節モ從前之通被除置候処

天正五年右寺住持領椿ナル者其除地上ト為鎮守牛

頭天王ヲ鎮座致置候故御一新之節神仏

混交御禁止ト付上地仕候間此段奉届也

明治九年三月二日

第二天

權訓導 西野□□ 印

愛知懸令安場保和殿

文献資料24

「大草庵創建棟札」

天正13年(1585) 永見寺蔵

裏書

天正拾三乙酉五月中八日 一字建立名大草庵
此山湧水無極故笄今以後五穀大豐饒也
專祈念家門繁榮子孫長久百事如意大吉祥
願主 伊藤三左衛門友信 中野傳之丞盛光 戸田彈十郎信由
弟僧 法眼 加藤儀大夫頼章 伊藤甚八郎良弘
鈴木武兵衛通宜 出家沙門法眼謹書之

手斧はつりのままの桧板に楷毛筆墨書する
正五分桧板 縦五〇センチ位・横二〇センチ位

表書

卍
奉請大草
水福大明神
土地大明神
祖靈大明神

(棟札)